



自立・振気・敬愛

令和5年度学校評価について

1月に実施した学校評価の結果がまとまりました。保護者の皆さん、ご協力ありがとうございました。昨年5月8日以降、新型コロナウイルスの扱いがインフルエンザと同じ扱いとなり、それまでのいろいろな制限や規模縮小が少なくなり、修学旅行をはじめとする校外学習の実施、地域人材活用による授業の実施、ボランティア活動の再開など、コロナ禍以前の活動ができるようになりました。しかし、まだまだコロナ禍による影響もあり、学校評価においても不十分な結果となった項目もありました。さらに、いつも問題として挙げられるネット利用の点にも、継続した対応の必要性を痛感しています。以下は、分析した結果です。家庭・地域・学校協議会の委員の方々からご指導・ご助言をいただいた内容を参考に、今後、改善に取り組んでいきたいと思っております。ご家庭でもお子さんと話題にさせていただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

【7月学校評価と1月学校評価の結果】

| | 重点目標 | 生徒の回答 | | 保護者の回答 | | 教員の回答 | |
|----------|--------------|--------|----|--------|----|---------|----|
| | | 肯定割合 | 評価 | 肯定割合 | 評価 | 肯定割合 | 評価 |
| 豊かな心 | 礼・黙想・無言清掃の推進 | 98・98 | ◎ | 88・80 | ○ | 100・100 | ◎ |
| | 感謝と思いやりの心の育成 | 98・98 | ◎ | 86・83 | ○ | 100・100 | ◎ |
| | 協力し認め合う活動の充実 | 95・94 | ◎ | 93・98 | ◎ | 100・93 | ◎ |
| 確かな学力 | わかる授業と主体的な学び | 85・83 | ○ | 63・70 | △ | 100・100 | ◎ |
| | 個に応じた学習支援の充実 | 98・100 | ◎ | 75・91 | ○ | 100・92 | ◎ |
| | 基礎・基本の定着への取組 | 82・75 | △ | 63・73 | △ | 100・100 | ◎ |
| 健やかな体と活力 | 目標を持った諸活動の取組 | 92・91 | ◎ | 86・96 | ◎ | 100・100 | ◎ |
| | PM9.5運動の推進 | 78・77 | △ | 70・60 | △ | 85・78 | ○ |
| | 早寝早起き朝ご飯の推進 | 83・73 | △ | 78・81 | △ | — | — |
| 信頼される学校 | 地域人材を活用の充実 | — | — | 86・86 | ○ | 50・93 | △ |
| | 体験ボランティア活動推進 | 40・56 | ▲ | 23・21 | ▲ | 77・79 | △ |
| | 学校情報の発信の充実 | — | — | 96・88 | ◎ | 86・86 | ○ |

7月・1月平均値：◎90以上 ○80以上 △80未満 ▲60未満

【本校豊かな心づくり部会と深い学びづくり部会による振り返り】○：分析と成果 ▲：課題と改善策

◆「豊かな心」の育成

- 「校門での礼」、「授業前の黙想」、「無言清掃」などの自己を見つめる活動では、7月に比べると、よく当てはまると答えた生徒は減っているが、だいたい当てはまると答えた生徒は増えている。これは、形だけではなく、心も伴った行動が「礼の心」と捉え、そのため「礼の心」に対する意識が高まったからではないかと考える。
- 学校生活のあらゆる機会を捉えて、道徳心や人権意識を育成していく項目では、全く当てはまらないと答えた生徒が7月よりも減っている。これは、ポジティブ教育の効果が少し現れたのではないかと考える。
- 学校行事・部活動・生徒会活動など、仲間と一緒に活動することについて、2年生は肯定的な回答の割合が増えた。これは、2年生は後期から活動の中心となり多くの生徒が前向きに取り組む意識が高まったこと、自分たちでできることが増え、自信が持てたのではないかと考える。
- ▲1年生は上志比中学校との交流で「礼の心」をテーマに話し合いをして、改めて考える機会があった。交流活動だけでなく、全校の取り組みとして道徳の授業で「礼の心」について考え、見つめ直す機会を設けたい。また、「礼の心」を言葉のみの理解に終わらないようにしたい。
- ▲ポジティブ教育を継続し、生徒の道徳心や人権意識を高めさせたい。今年度はレジリエンスを中心に実施したが、来年度は、ソーシャルスキル、ピア・サポートの活動も積極的に実施したい。ポジティブ教育については、スクールカウンセラーの先生とも協力し、生徒の心の育成に努めていきたい。
- ▲1年生は、仲間と協力し認め合いながら学校生活を送っていると感じている生徒の割合が他学年と比べると低い傾向がある。今後様々な活動を通して、自分たちですすめられるという意識を持たせたい。

◆「確かな学力」の育成

- 授業で積極的に発言したり、興味を持ったことを進んで調べたりして、楽しく授業に取り組むことができた、と肯定的な回答した生徒の割合は、全体で80%を超えている。3年生は7月調査より肯定的に回答した生徒の割合が少し高くなったが、1、2年生の割合は減少している。これは、1、2年生の学習内容が7月より難しくなってきたからではないかと考える。

- すべての生徒が、学習で分からないことがあると先生は丁寧に教えてくれると回答している。これは一人一人のニーズに合わせた、先生方の丁寧な学習指導の賜物ではないだろうか。また、授業での支援員の先生方のサポートや通級指導、ニーズに合わせたオンライン授業など、生徒に合わせて教育ができていく成果だと考える。
- 基礎・基本の習得に関する項目では、生徒は7月よりも1月は肯定的な回答が減少している。指示待ちになってしまい主体的に学習に取り組めなくなっている生徒もいるのではないかと考える。
- ▲主体的に学ぶ生徒の育成を図るため、今後も、自立性、対話を通した学びができるような課題設定の工夫や発問の工夫、振り返りの充実を図りたい。また、対話をしようとする意識を向上させるため、帰りの会などでスピーチの感想を言う、学級会を設け話し合う場を作ることを検討したい。
- ▲特別な支援や配慮が必要な生徒、学習面での困り感を抱いている生徒の数は依然として多く、今年度は支援員の方の協力をいただいて個のニーズにできるだけ合わせてサポートができた。けれども来年度以降もそれが継続できるかどうかは不明である。教員が特別支援教育に対する知識を増やし、より個のニーズに合わせた多様な支援や配慮ができるよう、校内研修を充実させていく必要がある。
- ▲今年度から基礎・基本的な内容を問う小テストを各教科対応とした。これまでは小テストで合格するために繰り返し問題を解くことをしてきたが、そのような機会が減ったことで、基礎・基本的な内容を身につけるための取り組みも減ったのではないかと推測される。各教科で実施する小テストは基礎・基本を身につけさせるよい機会と捉え、よい手立てを講じたい。また、iPadの学研教材を繰り返し取り組ませるなど、さらに有効活用していきたい。
- ▲生徒一人一人の学力を向上させる手立てとして、演習の時間を増やすべきと考える。ただ、指導すべき学習内容が多いため、そのような時間を確保するのは現状として難しい教科もある。さらに、生徒の主体性を高める授業展開を、各教科で取り組むべきとも考える。

◆「健やかな体と活力」の育成

- 1年生は部活動で活躍する場が増えたため、目標をもって活動したり自信をもてたりした生徒が7月よりも増えたのではないかと。2年生は学校行事や諸活動をよりよいものにしたという意識の高まりが感じられるものの、その気持ちをうまく活動に反映できていない生徒もいるため、目標をもって諸活動に取り組めたと感じた2年生の割合が7月よりも少し下がったと考える。今年度の学校行事では、保護者の参観に関して大きく制限をかけることなく実施することができた。
- 11月に開催した合唱フェスティバルの保護者の参観が多かった。生徒は、保護者の参観によって諸活動に取り組む意欲が高まる傾向があると考えられる。
- ▲本校独自の「スマートルール」が守られているかを問う項目では、保護者と生徒の意識の差が大きい。スマートルールを守る生徒を増やすためには、家庭との連携が必要と考える。今年度の教育講演会では、ゲーム時間と学習定着の関係、ゲーム脳に関する講演があった。是非とも保護者にも聞いてもらいたい内容であったが、保護者の参加が少なく残念であった。保護者からのアプローチもあると、自分たちへの影響をより意識させることに効果があるのではと考える。
- ▲朝の健康記録カードには睡眠や食事に関する項目があり、養護教諭は毎日全生徒分を確認している。それを見ても、12時を過ぎてから就寝する生徒、朝食をあまり食べてこない生徒がいることがわかる。保健だよりや給食だよりを中心に、睡眠、食生活の情報を発信しているが、改善傾向はあまり見られない。そのため、生徒だけでなく家庭の協力が必要になってきていると考える。

◆信頼される学校

- 感染症が5類になったことでボランティア活動も以前のように行われるようになり、学校にはボランティア募集の案内が届くようになった。そのため昨年よりも積極的にボランティアに参加する生徒が増えた。
- 学校が楽しいかを問う項目では、全く当てはまらないと回答する生徒の割合が減った。7月から11月にかけて、学校行事も多く、活動の機会が増えたからではないか。また、年間を通して取り組んでいるレジリエンス教育の効果も現れているのではないかと。
- ▲多くの生徒がボランティア活動に参加するようになってはいるが、何度も参加している意欲的な生徒もいる。今後も参加の機会を増やして、多くの生徒がボランティア活動に取り組めるようにしたい。
- ▲学校が楽しいと感じるために、自分で楽しもうとする、楽しいものにしようとする意識がもてるように働きかけたい。
- ▲学校のホームページや各種たよりを通して学校の様子を知る保護者が多くいることから、今の取り組みを続け、保護者に学校の情報を提供し続けたい。

【家庭・地域・学校協議会の委員の方々からのご意見】

- ・探究型の授業が行われるようになった。時代とともに教育は変化している。保護者には新しいことを学び受け入れてほしい。
- ・地域の活動（秋浪漫、各種ボランティア活動）に、中学生が参加した。中学生がいることで地域が活気づいてくる。今後も中学生を大人と混ぜて活動に参加をさせていきたい。
- ・働き方改革やPTA活動の縮小等で部活動が縮小している。生徒の活動の場を確保するためには、地域や保護者の協力が必要と感じる。
- ・挨拶について、学校ではできていると思うが、地域では挨拶ができない子が多い。挨拶は大事と考えている生徒は多いと思うが、思うこととやることとが一致していないように感じる。行動力が弱い。
- ・保護者の考えや行動が子どもの行動に影響していると思われる。保護者、地域全体、学校で子どもを育てることが何よりも大事である。
- ・学校行事や授業参観を見ていると母親の参加者が多い。男性保護者も積極的に参加していくとよい。
- ・調査結果より、自分を肯定的に捉えることができる生徒が増えている。これは、ポジティブ教育の成果と思う。
- ・人権週間に取り組んだ「自分の強みについて」。生徒だけでなく保護者も巻き込んでいるのはよい。ワークシートも記入しやすく、客観的に自分を見るいい機会となったのではないかと。
- ・コロナが5類になり、マスク着用は個人の判断になった。スポーツをしてもマスクを着用する子がおり、健康面が心配になる。マスクを着用することで、表情がわかりにくくコミュニケーションが取りづらい。